

であう。つながる。ひろがる。



同志社大学ボランティア支援室

活動報告書

2019



同志社大学 学生支援センター

ボランティア支援室

Support Office for Student Volunteer Activities



ボランティア支援室長
下楠 昌哉

本学は創立以来、建学の精神である「良心教育」において、知育・体育とともに、キリスト教に基づく徳育を重視しています。その徳育の一環として、学生によるボランティア活動を積極的に支援し、学生の自主性、社会性及び奉仕の精神を育み、市民社会の一員としての自覚を促すことを目的に、2016年4月にボランティア支援室を開設し、今年で4年目を迎えました。

本学ではボランティア支援室開設前から、学生が地域社会において異なる世代や立場、価値観等にふれる機会の提供を目的に、さまざまな正課外プログラムを実施してきました。こうした従来からの取り組みを活かし、ボランティア支援室では「地域連携」を一つの柱に、ボランティア情報の収集や学生への情報提供をはじめ、ボランティア活動への参加促進や参加に際しての助言、セミナーや講座の開催等を行っています。また、学内外のボランティア団体等との連携・協力によりネットワークを構築し、学生のボランティア活動の場の選択肢を広げ、地域社会と大学をボランティアの心でつなぐことを目指し、日々取り組んでいます。

そうした中で、2019年度は、今後のボランティア支援室としての幅を広げる取り組みを、新たにいくつかスタートした1年となりました。

まず、京田辺校地におけるボランティア支援室学生スタッフ ARCO の発足です。それまで、今出川校地でのみ活動していた ARCO ですが、京田辺校地に在籍する学生から「自分たちでボランティア情報を発信し、ボランティア活動に参加したい学生をコーディネートしていきたい」という声が出始めたことや、京田辺の地域特性を踏まえた取り組みニーズが一定程度あることを踏まえ、2019年度を2020年度より本格的に活動開始するための準備期間と位置づけ、学生スタッフとしての活動理念や組織の在り方、基幹事業のコンセプトの検討を行いました。

そのうえで2020年1月に、食や農をテーマに京田辺市でIT技術を活用してトマトを栽培している農家を取りあげ、京田辺地域における農業政策や流通事情にもふれながら、地域と学生を繋ぐ第1回目の企画「たなふぁーむ」を実施しました。単に自分達の「やりたい」という思いだけでなく、ARCOの活動理念を踏まえたうえで、京田辺キャンパスを活動拠点としている在学生の興味や、京田辺の地域特性を活かした企画を実現することができました。2020年度より、ボランティア支援室学生スタッフ ARCO として本格的に活動が始まりますが、自分たちが企画する活動や地域の方々とのコミュニケーションの中で、地域と学生を繋ぐ役割をしっかりと担っていった欲しいと思います。

次に、災害ボランティア活動への参加体制の整備です。本学は、今出川キャンパスが立地する京都市上京区との間で「京都市上京区災害ボランティアセンター設置に係る協定書」を締結しており、ボランティア支援室にはこの協定の実質化を図るうえで、災害ボランティアのノウハウ等の蓄積や、復興支援活動を通じた地域との関係づくりを学んでいく必要性がありました。その一方で、2016年に発生した熊本地震への災害ボランティアの派遣以来、災害復興に継続的に携わることができていませんでした。今回、福島大学災害ボランティアセンターと情報交換させていただくなかで実現した、台風第19号被災地での災害ボランティア活動への参加は、学生たちが実際の現場を自分の目で見て、体験することの重要性を改めて感じる機会になるとともに、被災された方から災害発生時の状況や、その方々に寄り添い活動する人の思いを直接うかがう貴重な経験となりました。

ボランティア支援室は、こうした機会を学生たちに継続して提供していくためのハードとソフト両面での支援体制の整備を進め、災害ボランティアのノウハウを着実に蓄積していきたいと考えています。

2019年度末現在のボランティア団体の登録数は250団体で、2018年度と比べて新たに19団体と関係を築くことができました。ボランティア支援室は今後も引き続き、支援室の認知度の向上に取り組み、学生が来室しやすい環境を学生スタッフとともに整え、一人でも多くの学生が実際にボランティア現場へ足を運びきっかけを提供できるように、支援室としての機能を充実させていきたいと考えています。

目 次

1. ボランティア支援室長 挨拶	1
2. ボランティア支援室について	
理念・目的／組織体制／活動内容	3
ボランティア支援室主催事業 2019 年度	4
相談対応（ボランティアコーディネーション）について／学生来訪者（学生相談受付シート）の内訳	5
■ボランティア支援室学生スタッフ ARCO	
学生スタッフ ARCO とは／代表挨拶／ 2019 年度活動実績	6
チラシ配布・三角ポップ設置／北コミ祭りにてブース出店／出張ボランティア支援室／ ARCO 内研修	7
プラタナ～京田辺まちあるき～／そうだ、一休寺いこう 一休寺×ヨガ	8
3. ボランティア支援室実施・参加事業	
■地域連携・活性化	
同志社つながる@カフェ	9
たなしる	10
和束のお茶を守ろう！茶畑ボランティア	11
■子ども	
みんなで遊ぼう！わくわく工作イベント（夏）／寒梅館夏まつり「かみぎゅうくんの夏休み」／	
1 日体験ボランティアプログラム「梅小路公園で子どもたちと昔遊びをしよう！」	12
みんなで遊ぼう！わくわく工作イベント（冬）	13
■障がい	
1 日体験ボランティアプログラム「こどもと楽しいクリスマス会を過ごそう！」	13
■環境	
祇園祭ごみゼロ大作戦！／ 1 日体験ボランティアプログラム「美しい竹林再生活動に参加しよう！」	14
■災害・防災・復興支援	
令和元年台風第 19 号災害義援金募金活動	15
災害ボランティア入門講座「もし、災害が起きたら私たちにできることは」／	
令和元年台風第 19 号の影響に伴う被災地支援ボランティアプログラム	16
■国際	
JICA 国際ボランティアセミナー～青年海外協力隊ってどんなの？～／	
NICE 国際ボランティアセミナー～国際ボランティアってどんなの？～	17
■講演会、講習、セミナーなど	
ボランティア入門講座～ボランティア参加のススメ～／スキルアップ講座 Vol.5 グループ運営とコミュニケーションのコツ／	
スキルアップ講座 Vol.6 どうする？メンバーのモチベーション？	18
4. 同志社ボランティアネットワーク	
■V-NET	
ボランティアサークル紹介イベント in 今出川／ボランティアサークル新歓交流会	19
V-NET 交流会／復興ボランティア学ワークショップ	20
V-NET クリスマス交流会／V-NET 自主研修会	21
（今出川）国際居住研究会／STUDY FOR TWO 同志社大学支部／学生団体 CHAD	22
学生団体 LUCKY／ASUVID 今出川／同志社ヒーローショー同好会	23
同志社ワーキングコース／Shinmachi Activate Project (SAP)	24
（京田辺）スポーツボランティア団体 Egg／Global Baton for Ishinomaki／そら	25
同志社生涯スポーツ研究会 ～ DUAL Sport ～／PAZ MUSICA／ASUVID 京田辺	26

ボランティア支援室について

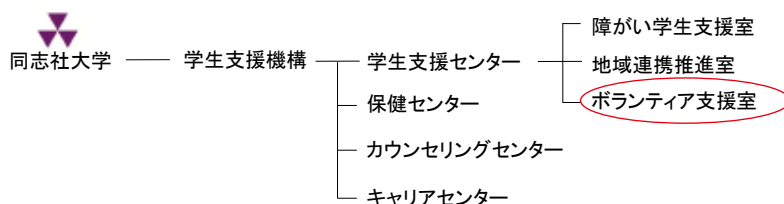
理念・目的

同志社大学は創立以来、建学の精神である「良心教育」において、知育・体育とともに、キリスト教にもとづく徳育を重視してきました。その徳育の重要な一環として、学生によるボランティア活動を積極的に支援することにより、学生の自主性、社会性および奉仕の精神を育むとともに、市民社会の一員としての自覚を促すことを目的として、2016年4月に開設しました。

ボランティア支援室は、学生の成長への支援と同時に、その活動を通じて、大学が地域社会の一員としての責任に応えていくことを念頭に活動します。

組織体制

ボランティア支援室は、課外プログラムや学生生活上の補助を行うことで、学生生活を主体的に送れるようサポートしている学生支援センターの中に位置づけられています。また、ボランティア支援室に関する基本的事項を審議するため、ボランティア支援委員会を設置しています。ボランティア相談の対応やボランティアプログラムの実施等においては、ボランティア支援室の職員及び、両校地の学生スタッフ ARCO が企画・運営しています。



ボランティア支援委員 (2020年3月現在)

氏名	役職
上田 雅弘	ボランティア支援室長 (委員長)
横井 和彦	キリスト教文化センター所長
関谷 直人	神学部 教授 (学識経験者)
永田 祐	社会学部 教授 (学識経験者)
井上 真琴	学生支援機構事務部長 今出川校地学生支援課長
太田 博之	京田辺校地学生支援課長

ボランティア支援室 (2020年3月現在)

氏名	役職
河合 良彦	今出川校地学生支援課 係長
大澤うらら	京田辺校地学生支援課 係長
古川 博康	今出川校地学生支援課
高橋あゆみ	今出川校地ボランティアコーディネーター
竹村 光世	京田辺校地ボランティアコーディネーター

ボランティア支援室学生スタッフ ARCO (2020年3月現在)

今出川校地		京田辺校地	
代 表	1 名	代 表	1 名
副代表	1 名	メンバー	7 名
メンバー	37 名		

活動内容

● ボランティア情報の収集及び学生への情報提供

ボランティア情報を収集のうえ整理し、ボランティア活動を希望する学生に対して、希望する活動内容に応じた情報提供を行います。

● ボランティア活動への学生の参加促進

ボランティア活動希望学生とボランティア先のコーディネートや、学生のボランティア参加を促すことを目的とした体験的なボランティアや講演会の企画などを行います。

● ボランティア活動に参加する学生への助言と支援

学生がボランティアに参加するに際して必要な助言や支援を行います。

● ボランティアセミナー、講習会等の実施

ボランティア活動を始めたい学生や、ボランティアに関するスキルアップを目指す学生のために、様々なセミナー、講演会などを開催します。

● 学内外のボランティア団体等との連携・協力

学内外の関連団体や地域の方々とのネットワークを構築し、学生にとっての活動の場を広げるとともに、地域社会における様々なボランティア活動の、振興の一助となることを目指します。

(関西地区大学ボランティアセンター連絡協議会 / 大学間連携災害ボランティアネットワーク / 大学のまち京都 災害ボランティアに係るパートナーシップ)

ボランティア支援室主催事業 2019 年度 今出川校地：[今] 京田辺校地：[京]

月	日	タイトル・内容	参加者数	場所
4	3	ボランティアサークル紹介イベント in 今出川	55	[今]ラーニング・commonsプレゼンテーションコート
4	3・23	ボランティアサークル新歓交流会	50	[田]ローム記念館劇場空間
5	23	第15回 同志社つながる@カフェ 奥深い祇園祭のアレコレ ～祇園祭のこと、ほんとに知ってる?～	9	[今]良心館409教室
6	19・24	ボランティア入門講座～ボランティア参加のススメ～	10	[今]良心館101教室、 [田]知真館1号館108教室
6	24・27	JICA国際ボランティアセミナー ～青年海外協力隊ってどんなの?～	12	[今]良心館207教室、 [田]知真館1号館108教室
6	25	V-NET交流会	40	[田]新別館第10会議室
6	29～30	[体験ボランティアプログラム第8弾] 和束のお茶を守ろう!茶畑ボランティア	5	相楽郡和束町
7	6	災害ボランティア入門講座	学生1 教職員1	佛教大学二条キャンパス N1-207教室
7	8	第16回 同志社つながる@カフェ 職人に聞く!京菓子の魅力 ～地域に根付く京菓子文化～	12	[今]良心館411教室
7	9・10	NICE国際ボランティアセミナー ～国際ボランティアってどんなの?～	8	[今]良心館302教室、 [田]知真館1号館211教室
7	15・16	祇園祭ごみゼロ大作戦!	68	四条烏丸周辺
9	4	復興ボランティア学ワークショップ	9	[田]新別館第10会議室
9	18	[スキルアップ講座]Vol.5 グループ運営とコミュニケーションのコツ	25	[田]知真館1号館116教室
10	26	1日体験ボランティアプログラム 梅小路公園で子どもたちと昔遊びをしよう!	8	梅小路公園
10	26～27	[体験ボランティアプログラム第9弾] 和束のお茶を守ろう!茶畑ボランティア	4	相楽郡和束町
11	6	V-NETピクニック	22	[田]図書館前広場
11	6・7	被災地支援ボランティアガイダンス	7	[今]良心館403教室、 [田]知真館1号館107教室
11	9	1日体験ボランティアプログラム 美しい竹林再生活動に参加しよう!	3	ビオ多々羅内 竹林
11・12	1～1	令和元年台風第19号災害義援金募金	延べ59	両校地
11	16	1日体験入部 (同志社生涯スポーツ研究会～DUALSport～)	1	大住児童館
12	9	第17回同志社つながる@カフェ 西陣織～古今結びて、未来を織る～	5	[今]良心館411教室
12	12	V-NETクリスマス交流会	40	[田]多目的ホール
12	22	1日体験ボランティアプログラム こどもと楽しいクリスマス会を過ごそう!	1	城陽市東部コミュニティセンター
1	11	第1回たなしる たなふあーむ	6	杉田農園、龍馬館
1	12～13	令和元年台風第19号の影響に伴う 被災地支援ボランティアプログラム	2	福島県いわき市
2	7	V-NET自主研修会	22	[田]新別館第12会議室
2	12	第18回同志社つながる@カフェ 出町商店街は楽し歩けよ学生	10	出町商店街
2	13	[スキルアップ講座]Vol.6 どうする?メンバーのモチベーション	14	[今]寒梅館地下A会議室
2	26	1日体験ボランティアプログラム こども食堂でこどもと一緒に過ごそう!	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止	
3	17～18	[体験ボランティアプログラム第10弾] 和束のお茶を守ろう!茶畑ボランティア	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止	

相談対応（ボランティアコーディネーション）について

ボランティア支援室では、各校地の窓口にてボランティア活動を希望する学生に対し、相談対応を行っています。相談者に応じたボランティア活動をコーディネートできるよう「学生相談受付シート」にて情報を把握し、ボランティア支援室内で共有しています。「どのようなボランティアがあるか知りたい」「まちづくりに関わる活動に参加したい」などと、様々な相談が寄せられました。

また、学生以外に、ボランティア募集を希望される団体の方からの相談にも応じています。2019年度末現在のボランティア団体登録数は250団体となり、2019年度の新規団体登録数は19団体となりました。

窓口開室時間：平日9：00～17：00（11：30～12：30は閉室）

学生スタッフ ARCO 対応期間：春学期 2019/4/8（月）～7/12（金）2講時～4講時

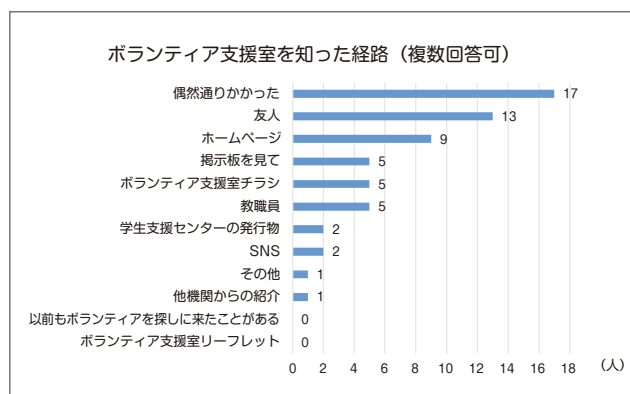
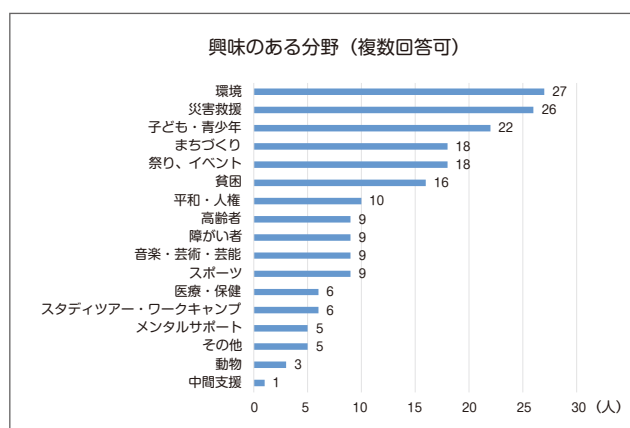
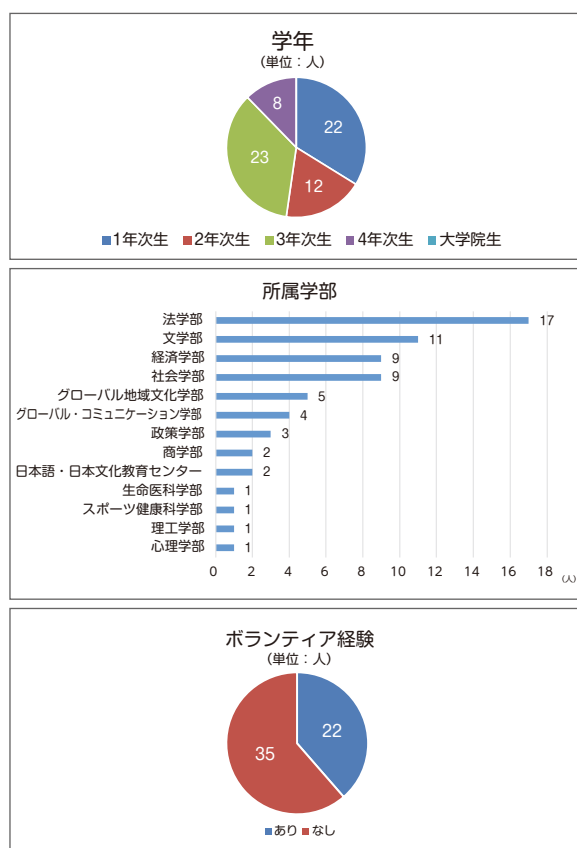
秋学期 2019/9/30（月）～2020/1/10（金）2講時～4講時

※窓口開室時間に合わせて、学生スタッフ ARCO 内でシフトを調整して相談対応に応じた（2019年度は今出川校地のみ）

学生来訪者（学生相談受付シート）の内訳（来訪者数：66名）

2018年度の来訪者は113名と、ボランティア支援室へ来訪した人数が約半分ほどに減少し、学内の認知度を上げることが引き続き、課題であることがわかりました。一方で、ボランティア支援室を知った経緯が「偶然通りかかった」学生が最も多く、偶然でも相談してみようとなったということは、ボランティア活動への関心が高いようにも伺えます。実際に、窓口での相談では、学年問わずにボランティアを始めてみたいという声が多く、特に上回生は、就職活動が落ち着いて時間ができ、前から興味があったボランティアをしたいという声が寄せられました。

2020年度もボランティア支援室の認知度を上げることを目指し、学生の目に触れる機会をより多くできるように取り組んでいきたいです。



※なお、例年、本学に登録しているすべてのボランティア団体を対象に行っている「本学学生のボランティア活動状況・受入に関するアンケート」については、新型コロナウイルスの影響で統計データとして集約するに十分な回答を得られなかったことから、今年度は割愛させていただきます。

学生スタッフ ARCO とは

「地域と共に」をスローガンに、同志社大学生のボランティア活動への参加促進を目的として、地域やボランティア情報の発信・紹介や、イベント等の企画・運営などを行っています。

代表挨拶

ARCO（今出川）代表 商学部商学科2年次生 湯川 菜乃子

2019年度はARCOにとって変革の年となりました。メンバーの数が増えたことで、地域イベントへの出店や、ARCOの知名度を上げるためのチラシ配りなど、これまで出来ていなかった新たな取り組みに挑戦し、活動の幅を広げることができました。

ボランティアに興味がある・やってみたいと考えている学生にとって、私たちARCOが少しでも役に立てたら、背中を押すきっかけになれば、大変嬉しく思います。そのための第一歩として、まずはより多くの人にARCOのことを知ってもらえるように、次年度も挑戦を続けていきます。

ARCO（京田辺）代表 心理学研究科1年次生 木田 昌慶

2019年度は記念すべき立ち上げの1年ということで、ARCO京田辺が成し遂げようとすることや京田辺地域と同志社大学生の互助的な関係構築の方法について、メンバー全員が前向きに議論して参りました。その成果として、一休寺でのヨガ体験や京都杉田農園でのトマト収穫体験等の企画を行い、目標とする地域と大学生の関係への入り口を拓くことができました。

2020年度は昨年度の実績を活かしながら、もっと多くの京田辺地域の魅力をユニークな切り口で大学生に伝えることで、両者の自立した関係づくりに寄り添うことを目指していきます。またニーズのある既存のボランティアや、地域が新たに助けを必要としている事柄を発見し、大学生に参加してもらうことを促進していこうと考えております。

＝ 学生スタッフ ARCO 2019年度活動実績 ＝

月	日	タイトル・内容
4	7	新入生歓迎イベント「つくりて食はん、いとをかし。～ARCOと探る京料理の魅力～」を実施
4	12・16・18・24	新メンバー募集説明会を実施
4	21	新入生歓迎イベント「ARCOと行く、ちょいボラ～西陣マルシェ編～」を実施
5	11	「プラタナ～京田辺まちあるき～」を実施
5	11	ボランティア支援室学生スタッフARCO（今出川）新メンバーオリエンテーション研修を実施
5	23	第15回 同志社つながる@カフェ「奥深い祇園祭のアレコレ～祇園祭のこと、ほんとに知ってる?～」を運営
6	17～21	出張ボランティア支援室を実施
6	27	ボランティア支援室学生スタッフARCO（京田辺）企画書プレゼン大会を実施
6・7	24～5	突撃ボランティア支援室を実施
6	28	「TANABE♡PROJECT会議」に参加
7	6	みんなで遊ぼう!わくわく工作を実施
7	8	第16回 同志社つながる@カフェ「職人に聞く!京菓子の魅力～地域に根付く京菓子文化～」を運営
7	13	社会福祉法人ぶろぼの デジタルゲームイベントの運営協力
8	9	令和元年度第1回上京区まちづくり円卓会議に参加
8	9	令和元年度第1回上京区まちづくり円卓会議拡大会議「上京!MOW」に参加
8	18	寒梅館夏まつりにてブース参加

月	日	タイトル・内容
9	12～13	ボランティア支援室学生スタッフARCO（今出川）夏合宿を実施
9	21	ボランティア支援室学生スタッフARCO（今出川）OBOG会を実施
10	13	社会福祉法人ぶろぼの デジタルゲームイベントの運営協力
10	20	上京区民ふれあいまつり2019の運営協力及びボランティア支援室活動紹介ブースを設置
11	11～15	出張!!ボランティア支援室～秋のボランティア祭り!～を実施
11	18～22	チラシ配布・三角ポップ設置企画を実施
12	9	第17回同志社つながる@カフェ「西陣織～古今結びて、未来を織る～」を運営
12	9～13	突撃ボランティア支援室を実施
12	12	第2回 田辺公園拡張整備事業 計画検討委員会に参加
12	14	そうだ、一休寺いこう 一休寺×ヨガを実施
12	15	京都市北青少年活動センター主催 北コミまつりにてブースを設置
12	20	ARCO内研修（今出川）を実施
12	22	みんなで遊ぼう!わくわく工作を実施
1	11	第1回たなひる「たなふぁーむ」を運営
2	12	第18回同志社つながる@カフェ「出町商店街は楽し歩けよ学生」を運営
2	12・13	大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー2020に参加
2	18～19	ボランティア支援室学生スタッフARCO（今出川）春合宿を実施

チラシ配布・三角ポップ設置

法学部法律学科1年次生 浦上 奈津希

以前から学生の間で ARCO やボランティア支援室の認知度が低いことが、学生スタッフ内で課題となっていました。今年度はメンバーの人数も増えて様々な企画を行えるようになったため、認知度向上を目指して、チラシ配りや食堂等への三角ポップの設置を実施しました。

メンバーの協力やチラシ等を見てくれた学生からの温かい声もあり、無事に配布や設置期間を終えることができました。その後の調査では、残念ながら、大幅な認知度向上は見られませんでした。しかし、今後も活動を継続していくことで着実に認知度を上げ、最終的にはボランティアの普及にも貢献できたらと思います。



北コミ祭りにてブース出店

法学部法律学科1年次生 安田 藍

私たち ARCO は、12月15日にキャンパスを飛び出して、北区にある京都市北青少年活動センターのお祭り『北コミ祭り』にブースを出店しました。北コミ祭りに参加する地域の方々に、ボランティア支援室が存在すること、そして ARCO の活動を知ってもらうことを目的としました。

ARCO を知ってもらうために、当日の様子がわかる写真を見せながら、企画の内容や狙い、過去の活動内容を説明しました。来室者の方は私たちの説明に熱心に耳を傾け、掲示物にも目を通してくださり、その上で時々質問やご意見をくださいました。

今回は、北区のお祭りで、ARCO の紹介を行うブースを出店しましたが、今後外部で活動する機会があれば、ぜひとも同志社大学のある上京区内で、パネル展示や他班合同企画の実施なども視野に入れられればいいな、と展望を抱くブース出店となりました。

出張ボランティア支援室

法学部法律学科1年次生 中野 希望

私は今回、出張ボランティア支援室という企画の運営に関わりました。出張ボランティア支援室では、多くの学生にボランティア支援室を知ってもらえるように、より多くの学生が通る場所を選んで実施しています。また、実施場所以外にも学生の目に留まるよう様々な工夫を考えて行っているので、普段の活動以上に学生のために活動している実感を得ることができました。



ARCO 内研修

法学部政治学科2年次生 飯田 淳史

今回の研修のテーマは「思いの棚卸し」でした。それぞれメンバーが ARCO をどんな組織にしていきたいのかを紙に書きだして、床に並べ、語り合うという内容で、他メンバーのボランティアや ARCO への思いを知ることができ、普段は面と向かって話づらい思いを吐き出すことができました。また、研修後に行った春合宿にて、書き出した紙をもとに、春学期目標を策定しました。今回の研修でメンバー各々の思いをくみ上げることができてよかったと思います。



ブラタナ～京田辺まちあるき～

【学生レポート】企画報告

文化情報学部文化情報学科3年次生 森下 宗一郎

5月11日（土）に京田辺キャンパス周辺地域のまちあるき企画「ブラタナ～京田辺まちあるき～」を行いました。これは、4年間に在籍する中で自分はどれくらい京田辺のことを知ることが出来るだろうか、という漠然とした自分のモヤモヤから企画しました。当時まだ未知数だった京田辺を、冒険するような感覚で歩く経路を決め、地域の方にアドバイスをいただき決行に至りました。今思うと、京田辺の魅力の1割も伝えることが出来なかったというのが正直なところですが、参加学生にとっては京田辺地域を知る機会として有意義だったと思うので、これからも続けていくべき企画と考えています。



【学生レポート】参加者感想

理工学部化学システム創成工学科1年次生 大江 志茉

入学してすぐにあったブラタナに参加したのは、これから過ごす京田辺というところはどういうところなのか、知りたいと思ったからです。入学してからずっと駅からキャンパスの往復で終わってしまっていたのがとても残念でした。今回はお店を知ること出来たし、それ以上にその道中で先輩方とお話しするのがとても楽しかったです。新学期で不安が多かったけれど、優しい先輩方の言葉に励まされました。参加してよかったです！



そうだ、一休寺いこう 一休寺×ヨガ



【学生レポート】企画報告

生命医科学研究科2年次生 谷口 尚

私は次年度の ARCO 京田辺の本格的な活動を視野に入れて行われた「そうだ、一休寺行こう」という企画の運営と実施に関わりました。この企画は京田辺を代表する一休寺に実際に足を運び、その魅力を感じることにより、京田辺により関心を持ってもらいたいという思いのもと始動しました。ARCO 京田辺としては初の試みも多く、試行錯誤の繰り返しでしたが、企画チームで一致団結し助け合うことで無事に当日を迎えることができました。そして、初めて一休寺を訪れた人も含め、参加者からはまた一休寺に訪れたいとの声を聞くことができました。協力いただいた関係者の方々には感謝の気持ちで一杯です。今後もこのような活動を続けていくことで、ARCO 京田辺が学生と地域の架け橋となれればと思います。

【学生レポート】参加者感想

理工学部機械システム工学科2年次生 森山 実幹広



今回の企画に参加したきっかけは、一休寺という地域の魅力を感じつつヨガで自分と向き合えと思ったからです。活動内容は、一休寺の歴史を学生スタッフの方に教えて頂いたり、インストラクターの方とヨガをしたりしました。一休寺は、一休宗純が晩年を過ごしたお寺として知られており、院内の散策途中に一休像を見つけて、当時の様子がよく想像できました。また、静寂の和室でヨガをやっていると、自分の身体に全集中し、その後の生活でも意識して体を動かすことができて良かったです。

同志社つながる@カフェ

「同志社つながる@カフェ」は、地域と学生の出会いをコンセプトに、地域で活動する様々な方々と出会い、気軽に情報交換ができる場として、上京区役所、上京区社会福祉協議会の協力のもと行っています。企画・運営はボランティア支援室学生スタッフ ARCO が担い、年間を通して実施しました。

今年度は下記のとおり全4回を実施し、より多くの学生が興味を持ってもらえるよう京都ならではのテーマを中心に地域が抱える課題や魅力について学びました。

実際に京菓子や西陣織に触れる機会や、商店街のお店のものを食べ歩きながらお店の方との交流を深める回もあり、テーマについてより身近に感じる機会を作ることができました。グループワークでは感想共有だけでなく、町おこしについて考える回もあり、活発に意見交換を行う姿が印象的でした。今後も継続して、学生が地域に興味を持つきっかけを作っていきます。

○実施日・実施テーマ（参加者数）

5月23日（木）第15回「奥深い祇園祭のアレコレ ～祇園祭のこと、ほんとに知ってる？～」（9名）

7月8日（月）第16回「職人に聞く！京菓子の魅力～地域に根づく京菓子文化～」（12名）

12月9日（月）第17回「西陣織～古今結びて、未来を織る～」（5名）

2月12日（水）第18回「出町商店街は楽しし歩けよ学生」（9名）



【学生レポート】企画報告

経済学部経済学科2年次生 藤原 もえ

企画が固まらない、話し合いが進まない、時間がない。@カフェ当日を迎えるにあたって、なかなか思いどおりにいかないことが多々ありました。何も考えたくない。指揮を執らなければいけないのにどんどん投げやりになっていく自分が情けなくて精神的にしんどかったことが思い出されます。それでもやるしかない。どうすれば魅力的なものになるだろうかと一緒に考え頑張ってくれた仲間とともに、企画はより良いものとなって、なんとか学生の皆さんにお届け出来たという達成感は計り知れません。「いつも楽しみにしています」「また参加したいです」との声を頂く限り、これからも地域・学生に寄り添った企画作りに励みたいです。

【学生レポート】参加者感想

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科3年次生 黒田 綾音

私が同志社つながる @ カフェに参加したきっかけは、ARCO に所属する友人からのお誘いでした。初めて参加した時は少し緊張していたのですが、ARCO の皆さんが積極的に話しかけて下さり、参加を歓迎してくれたので、とても居心地良く過ごす事ができ、どの回もまた参加したいと思える企画でした。

@カフェの内容は、西陣織の職人さんを招いての講演や、出町商店街の紹介など、京都ならではの文化や知識を知る事ができるものです。お話を聞くだけでなく、参加者がグループに分かれて話し合っ意見を出し合ったり、実際に商店街を食べ歩きしながら製品についてのこだわりを聞かせていただいたり、より身近なものとしてそのテーマを考える事ができる工夫がされていて、楽しみながら京都について学ぶ事ができました。

たなしる

「たなしる」は、「京田辺のヒトモノコトを知る・知らせる」をテーマに、参加した学生が京田辺地域の魅力を知り、地域に目を向けて、それ以降も地域に出ていききっかけとなることを目指しています。開催にあたっては、直接現場に触れられる機会を提供していくことに重点を置いています。2020年度に本格活動始めるボランティア支援室学生スタッフARCO(京田辺)の基幹事業として実施するべく、ARCOが企画・運営し、今年度は1月11日(土)に1回、開催しました。

今回は、京田辺市の重要な産業でありながら、担い手不足や高齢化による農家数の減少が市の課題となっている「京田辺の農業」をテーマに取り上げました。企画実施前に京田辺市農政課に京田辺市の農業の現状や課題をヒアリングする中で、参加した学生が京田辺のこれからの農業の魅力に興味を抱き、京田辺の農業に直接的に関わることができる形を考え、実践するように促すことを目標としました。

IT技術を用いたトマト栽培に取り組む杉田農園さんを訪問し、トマトを味わった上で、トマトの個性・魅力を話し合っ、トマトの売り方・広告の仕方の提案をするグループワークを行い、参加者の農業に対する見方を変化させ、ボランティアを実際してみたいと思うように促しました。当日は6名の参加があり、参加者からは「京田辺市の新たな魅力を知った。またこのような企画に参加してみたい」といった感想がありました。



【学生レポート】企画報告

心理学部心理学科4年次生 足利 優花

2020年1月11日に「たなふぁーむ」を開催し、京都杉田農園さんに訪問しました。参加者からは、京田辺にいるからこそできる体験を実現してもらえて嬉しいという声をいただいたので、開催して本当に良かったと思いました。今後の課題としては、知名度を上げて参加者を増やしたいということと、今回のワークショップで出た案を実現して少しでも参加した学生のアイデアを活かせたらと考えています。

【学生レポート】参加者感想

心理学部心理学科2年次生 大崎 修平

せっかく京田辺の大学に通っているのだから京田辺のことをもっと知りたいたいと思いつつ、昔からいつか農業をしてみたいとも思っていたため今回の企画に参加しました。実際に農家を訪れ、コンピュータ技術を駆使したトマトの最先端の栽培方法やその工夫、経営戦略など京田辺ならではの特色も学ぶことができ、とても良い体験になりました。また実際にトマトを食べ比べた際は、普段は意識できないような違いも体感でき、世界がより広がった気持ちになりました。京田辺にはまだ自分の知らない魅力が多く潜み、より知りたいたいと思うきっかけになりました。

和束のお茶を守ろう！茶畑ボランティア

体験ボランティアプログラム「和束のお茶を守ろう！茶畑ボランティア」を、年間を通して実施しました。体験ボランティアプログラムは「ボランティアに興味はあるけど参加するきっかけがない」「一歩を踏み出すのに勇気がある」といった学生を対象に実施している、ボランティア支援室主催のプログラムです。2016年度から継続して、京都府南部にある和束町にて活動を行っています。

今年度の活動は、主にお茶刈りのお手伝いや茶畑を維持していくための草引きなどを行いました。6月に実施した第8弾では、海外からインターン生や実習生として来られている方や、新茶のシーズンだけ県外から和束町に来て働いている方など、様々な方と一緒に活動しました。一方で、3月に予定していた第10弾は、これまで本プログラムで活動を行っていた茶畑に、お茶の苗木を植える作業を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響で残念ながら開催することができませんでした。

年に数回の活動ではありますが、今後も和束町のお茶に貢献できるよう継続的に本プログラムを開催したいと思います。

○実施日・参加者数・実施内容

6月29日（土）～30日（日）体験ボランティアプログラム第8弾（5名）
茶畑での草引き、肥料やり、お茶刈り

10月26日（土）～27日（日）体験ボランティアプログラム第9弾（4名）
茶畑での草引き、お茶刈り、茶農家との交流

【中止】

3月17日（火）～18日（水）体験ボランティアプログラム第10弾（申込7名）
茶畑での草引き、苗植え、茶農家との交流を予定していた

【学生レポート】参加者感想

政策学部政策学科1年次生 勝部 育

私はこれといった理由なく参加しました。しかし、草引きや収穫などの農作業や農家の方のお話を聞き、お茶への思いに触れるうちに、お茶に興味がわき、好きになりました。

特に印象的だったのが、茶畑の雑草を引き抜く作業です。一つ一つ草を抜くのは途方も無い重労働だなと感じましたが、やっているうちにお茶への愛情が芽生え、丹精をこめるという意味を知れた気がしました。また、海外から来たインターンの方や民泊先の仏師さん家族、そしてこの活動を共にした学生との普段なら出会わない人たちとの出会いはよい刺激になりました。自然と人間が共生する風景の中での経験と出会いはとても有意義で、自分が成長するよいきっかけになったと思います。





みんなで遊ぼう！わくわく工作イベント（夏）

7月6日（土）に烏丸キャンパス志高館ラウンジにて、ボランティア支援室学生スタッフ ARCO による「みんなで遊ぼう！わくわく工作イベント」を開催しました。当日は参加学生5名、小学生15名が参加しました。わくわく工作イベントとは、学生と地域がつながる場を作ることを目的に、学生がボランティアを通して、地域の小学生と楽しむイベントです。今回は、イベント中に作った物をみんなで遊ぶということをコンセプトに、ゲームや工作を行い、交流を深めました。参加した学生からは「子どもたちの笑顔がとても嬉しかった」「子どもたちに安全に楽しんでもらうための工夫や気遣いなど、普段あまり気にしない視点から活動に参加できた」「初めて日本でボランティア活動に参加できて良かった」といった感想が寄せられました。



【学生レポート】参加者感想

文学部哲学科1年次生 福田 衣恩

普段あまり接することのない子どもたちと触れ合うボランティアの宣伝を見た事をきっかけに、参加することを決めました。子どもたちに会う前は、どのように接したらいいのかわからず、とても不安でしたが、いざ始めると子どもたちと一緒に、クイズやゲームなどをして、自分も気付かないうちに仲良くなることが出来ました。子どもたちは、私の思わぬことをしたり、感情をそのまま表現し、とても素直で純粋な心を持っていることに改めて気付かされました。私にとって子どもと接したこの時間はとても刺激的でした。

寒梅館夏まつり「かみぎゅうくんの夏休み」

8月18日（日）に今出川校地学生支援課主催の「寒梅館夏まつり」が開催されました。「寒梅館夏まつり」とは、同志社大学のクラブやサークルに所属する学生が、日頃の活動の成果を披露するほか、地域の子どもたちに体験してもらい、交流を深めることを目的とするイベントです。ボランティア支援室では、学生スタッフ ARCO による企画「かみぎゅうくんの夏休み」を行い、わなげやパズルゲームを通じて子どもたちとの交流を楽しみました。また、アトリウムスペースに設けられた特設ステージでは、上京区や同志社大学にまつわるクイズを行い、かみぎゅうくんと Ben-K くんも登場し、一緒にステージを盛り上げてくれました。

当日は学生スタッフ ARCO のほか、クラブ・サークル11団体、約180名の学生がスタッフとして全体のイベントを運営し、子ども・保護者合わせ約260名の参加者に来場いただきました。



【学生レポート】参加者感想

経済学部経済学科1年次生 益田 雪景

寒梅館夏まつりでは、多様な催しを通じ、同志社大学の学生と地域の子どもたちが一緒になって、楽しい夏のひとときを享受できる場です。ARCO は、例年の輪投げ、パズル、クイズに加えて、今年は上京区のマスコットキャラクターである「かみぎゅうくん」の貼り絵も行いました。活動中、子どもたちの無邪気で素直な姿を見ると、新鮮な一方で、どこかノスタルジックな感情を覚えました。兎も角、子どもたちの笑顔は、この夏の僕の宝物のひとつになりました。



1日体験ボランティアプログラム「梅小路公園で子どもたちと昔遊びをしよう！」

10月26日（土）梅小路公園にて、1日体験ボランティアプログラム「梅小路公園で子どもたちと昔遊びをしよう！」を開催しました。1日体験ボランティアとは、地域のボランティア活動を少しのぞき見できる、1日体験型のプログラムです。大学主催のプログラムなので、安心して気軽に参加できます。

今回は、梅小路プレイパークという活動のメンバーが、この日行われる「やんちゃフェスタ」にブース出展されるということで、その出展ボランティアとして活動しました。参加者は8名でした。参加した学生からは「色々な遊び道具があって、子どもたちがとても楽しんでいた。良い経験になったのでまた参加したい」「自分自身が昔遊びを楽しめたし、色々なタイプの子どもの接し方も学べた。他の活動も体験してみたい」といった感想がありました。



【学生レポート】参加者感想

商学部商学科1年次生 白川 由佳

梅小路公園でのボランティアに参加した理由として、今までボランティアをしたことが数回しかなく、慣れていない私にとって1日ボランティア体験をすることができるのはとても良い機会になるのではないかと考えたからです。参加した当日は子ども達と一緒に外で思いっきり体を動かしながら楽しむことができました。このボランティアに参加して気づいたことがあります。それは周囲を確認することの大切さです。特に今回では外遊びだったので安全に子ども達が遊べるように周りの状況を把握することが重要だと感じました。

みんなで遊ぼう！わくわく工作イベント（冬）

12月22日（日）に室町キャンパス寒梅館地下A会議室にて、ボランティア支援室学生スタッフ ARCO による「みんなで遊ぼう！わくわく工作イベント」を開催しました。当日は参加学生3名、小学生14名が参加しました。わくわく工作イベントは、夏にも開催しているイベントです。今回は、3つのゲームと冬をテーマとした工作を行い、交流を深めました。参加した学生からは「普段話さない子どもと気軽に交流できて楽しかった」「事前準備やリハーサルなどもしっかり行うことが大変だと思ったが、楽しむことができた」「子どもが楽しんでくれたようで嬉しかった」といった感想が寄せられました。



【学生レポート】参加者感想

文学部文化史学科3年次生 小泉 愛海

地域の子もたちと交流できる企画に魅力を感じ、参加しました。なんでもバスケットなどのゲームや、ソックスノーマン作りを一緒に行いました。活動の中で、子どもたちが新しい友達を作ることができ、とても楽しそうに遊んでいた事が印象に残っています。そんな子どもたちの様子を見て、私もいつのまにか笑顔になっていました。最後に、「とっても楽しかった！お姉さんありがとう」と言ってもらえたのが、本当に嬉しかったです。



1 日体験ボランティアプログラム「こどもと楽しいクリスマス会を過ごそう！」



12月22日（日）に、城陽市立東部コミュニティセンターにて、1日体験ボランティアプログラム「こどもと楽しいクリスマス会を過ごそう！」を開催しました。

今回は、城陽サマースクール実行委員会が主催する、ハンディキャップを持った子どもたちとともに楽しむクリスマス会へボランティアの学生1名が参加しました。活動は、会場設営、工作準備、親子での工作の補助、子どもと人形劇鑑賞、歌の合唱・クリスマスプレゼント渡し、撤収といった流れで行いました。参加した学生からは「規模もそこまで大きくなく、楽しんで関わることができた。ほぼ初めてのボランティアだったのでボランティアをするにあたって何に気を付けたらいいのかわかることを目標にしていたが、あまり義務感などは感じずに活動したほうが、周囲の良い雰囲気づくりにも貢献できるのではと感じた」との感想が寄せられました。



【学生レポート】参加者感想

文学部文化史学科4年次生 碓井 梨子

就職活動も終わり余裕がある時間で何かできないかと思い、ボランティアに応募をしました。ほぼ初めての経験で不安も多い中、同行して下さった職員の方の存在は心強いものでした。何かを必要としている人たちのために、自分が持てるものを使ってお手伝いができること、そしてその影響が直接見てわかることは単純に嬉しく、ボランティアに対して抱いていたイメージがより身近なものになりました。大学という恵まれた環境にいる間に、自分が周囲に対してできることを少しずつ知っていけたらと思います。

祇園祭ごみゼロ大作戦！

7月15日（月・祝）、16日（火）に、ボランティア支援室からの募集に申込みした学生68名が「祇園祭ごみゼロ大作戦！」に参加しました。祇園祭の宵山行事で排出されるごみの減量のため、散乱ごみの回収と、屋台で使用する使い捨て食器をリユース食器に切り替える活動です。

事前に学内説明会、事後に活動の振返りを行い、説明会は全員参加、7月17日（水）今出川キャンパス良心館403教室、18日（木）京田辺キャンパス成心館204会議室で行った振返りには計18名参加しました。

学生からは「たくさんの方からありがとうと言われ、充実感を得られた。今回の活動を経て自分は運営を裏で支えることが好きだと感じたので、またこうしたボランティア活動があれば参加してみたい」などの感想がありました。



【学生レポート】参加者感想

スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科3年次生 稗島 梓

地域に貢献する活動がしたいと思い、参加させていただきました。活動はゴミステーションでの分別の呼びかけや、祭り終了後にごみ拾いを行いました。ごみ拾いの際にお祭りのごみはあまりなく、この活動の効果を実感しましたが、タバコのポイ捨てが目立ち、残念な気持ちになりました。ゴミステーションで分別の声かけを行うと、多くの方が足を止めて協力してくださり、最後には感謝の言葉をいただくことができたことがとても嬉しかったです。

1 日体験ボランティアプログラム「美しい竹林再生活動に参加しよう！」



11月9日（土）に、ビオ多々羅内竹林（京田辺キャンパス西門近く）にて、1日体験ボランティアプログラム「美しい竹林再生活動に参加しよう！」を開催しました。今回は両校地より計3名の学生が参加しました。

ビオ多々羅という地域団体が行っている竹林整備活動に参加して、竹を伐り、竹林から運び出してドラム缶で燃やす作業をしました。参加した学生からは「竹林の未整備が地滑りなどを引き起こすことが分かった。竹の伐り方やカマの使い方を教えていただき、竹の枝を削ぐ作業がうまくできるようになった」「かつての里山風景を取り戻す活動に触れ、京田辺について知りたいと思うことが増えた」といった感想がありました。



【学生レポート】参加者感想

経済学部経済学科2年次生 藤代 帆夏

自然や環境に関わる活動をしたいと思い、竹林整備の1日体験ボランティアに参加しました。他の応募者や環境整備のボランティア活動をしている団体のASUVID京田辺のメンバーとともに、竹林の竹をのこぎりで切り、燃やす作業をしました。昨年の台風の影響で竹が折り重なって倒れている場所があったため整備に時間がかかりましたが、参加者同士で協力して作業を進めることができました。活動では竹林整備の必要性だけでなく、協力することの楽しさも実感しました。

令和元年台風第19号災害義援金募金活動



11月1日（金）～12月1日（日）の期間で、令和元年台風第19号災害の義援金募金を学内で実施しました。寄せられた募金の総額は39,005円となり、全額を日本赤十字社へ寄付いたしました。

また、11月11日（月）～22日（金）の平日には、今出川校地の良心館前と図書館前、京田辺校地の多目的ホール前にて、義援金募金活動に賛同した学生による呼びかけ活動を行い、両校地併せて、のべ59名の学生が、募金活動ボランティアに参加しました。

人通りが少ない中でも、活動中は積極的に声掛けを行う学生の姿が多く見られました。募金や募金活動ボランティアにご協力いただいた皆様、あたたかいご支援に感謝いたします。

被災地域では、まだ被害が多く残る地域もあります。自分に何かできないかと考えている学生のみなさん、まずはお気軽にボランティア支援室までご相談ください。

【学生レポート】参加者感想

文学部国文学科1年次生 山崎 郁香

私は熊本地震で被災した際に全国から沢山の支援をいただいた経験から、少しでも台風19号の被災地の復興のお手伝いがしたいと思い、義援金募金活動に参加しました。私たちの呼びかける声に足を止めてくださった方一人ひとりの思いを知ることはできませんが、多くの学生が、何気ない日常の中にいながら、離れた場所で苦しんでいる方々に寄り添う想像力を持っていることに温かい気持ちになりました。学生の思いを届ける手助けとなっていれば幸いです。

【学生レポート】参加者感想

スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科3年次生 都築 優人

今回の募金活動に参加して、学生のボランティアに対する印象が見えたと感じました。お昼休みに募金の呼びかけを行っていましたが、協力してくれる人、ただ通り過ぎる人、こちらをちらっと見る人様々です。予期せぬ災害の被害に遭う可能性は誰にも等しくあるはずだと思うので、近くに困っている人がいるとき、自分ごととしてとらえ、助けようとする人がもっと増えればいいなと感じました。



災害ボランティア入門講座「もし、災害が起きたら私たちにできることは」

7月6日(土)に、佛教大学二条キャンパスN1-207教室にて、講師に一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)の垣貫紀彦氏を招き、開催されました。

当日は、自分自身や家族の安全を守るために必要な知識や、災害の種類、防災・減災、災害ボランティア活動に関する基本事項を学ぶ講義の後、グループ毎に分かれてワークショップ「防災カードゲーム教材クロスロード」を行いました。ワークショップでは、各カードに書かれた災害時の状況に対し、災害ボランティアとして自分が活動する場合にどんな判断をするかを、事例毎にグループ内で共有しました。

「大学のまち京都 災害ボランティアに係るパートナーシップ宣言」の取り組みの一環として開催された本講座には、大学生や学校関係者だけでなく、京都市内の各社会福祉協議会の職員、一般の方等多様なメンバーが参加しており、色んな人の考え方や判断基準を知る良い機会になりました。

令和元年台風第19号の影響に伴う被災地支援ボランティアプログラム

2020年1月12日(日)～13日(月・祝)に、福島県いわき市にて「令和元年台風第19号の影響に伴う被災地支援ボランティアプログラム」を実施し、本学学生2名と職員2名が参加しました。

ボランティア支援室では、毎年のように全国で発生する自然災害に対する災害ボランティア活動への備えやノウハウ等の蓄積などが課題となっていることを受け、2019年12月に現在も復興支援活動を継続的に取り組まれている東北地域の大学や関係機関にヒアリングを行いました。そのヒアリングを通して関係を構築した福島大学災害ボランティアセンター(以下、福大災害ボラセン)より、台風第19号による復旧活動のボランティアニーズがあることを受け、福大災害ボラセンと連携し、本プログラムを実施することとなりました。

活動では、いわき市災害ボランティアセンターを通じて、被災された方のお庭での清掃活動を行った他、いわき市内の避難所にて福大災害ボラセンが独自に展開している活動に参加しました。また、2日目は東日本大震災で被災した地域を視察しました。

参加した学生からは、「実際に被災地へ行くと考えさせられ、胸が痛くなる。自分にできることが少しでもあるなら積極的に取り組みたいと思う」「学生の手を必要としているところもまだまだあると感じたので、災害の重大さを伝えたい。」という感想が寄せられました。

ボランティア支援室では、今回のプログラムをきっかけに災害ボランティアに関しても様々なプログラム等を今後展開していく予定です。



【学生レポート】参加者感想

商学部商学科2年次生 野崎 斗真

2020年1月に、台風19号で被害を受けた福島県いわき市にて災害ボランティアの活動に参加しました。実際に被害を受けたお宅に訪問し、氾濫した川によって流された藁の片付けや、当時、台風19号関連としては全国で唯一残っていた避難所で炊き出しを行いました。また、東日本大震災で大きな被害を受けた町を訪問し、9年経った今でも震災の悲惨さや被害の大きさを感ずる機会となりました。災害は他人事と思うのではなく、身近に潜んでいるものであると実感させられました。

JICA 国際ボランティアセミナー～青年海外協力隊ってどんなの?～

6月24日(月)に京田辺キャンパス知真館1号館108教室にて、27日(木)に今出川キャンパス良心館207教室にて「JICA 国際ボランティアセミナー～青年海外協力隊ってどんなの?～」を開催しました。参加者は両キャンパス合わせて12名でした。

この企画は国際協力に興味がある学生を対象に、JOCA(公益社団法人青年海外協力協会)職員と、JICA ボランティア経験者を講師としてお迎えし、制度や活動の体験談を語っていただくセミナーです。今年度は、ルワンダ共和国で公立中学校での理科教育支援に従事された方と、女性の起業支援等、現地の人の収入向上に関わる活動を行った方に体験談を伺いました。

参加者からは「実際に行かれた方の話を聞くことができ、写真を見ることで想像がより鮮明にできました」「日本のこともよく知ってから行き、意識的に物事を考えることをこれから意識していきたい」などの感想がありました。



【学生レポート】参加者感想

スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科3年次生 鈴木 みのり

JICA 海外協力隊に深く興味があり、今回の JICA 国際ボランティアセミナーに参加しました。このセミナーに参加する前も、数々の OV(※)さんの話をお聞きしてきましたが、やはりそれぞれの方に異なった体験談や思い出があり、毎回とても面白くワクワクしています。今回も鎌中さんに、素敵な動画や写真を通してご講演いただきました。貧しい中にも沢山の笑顔があり、本当の幸せとは何なのか改めて考えさせられました。今回セミナーに参加して、より一層、そんな素敵な世界を自分も見たいと強く感じることができました。ありがとうございました。

※ JICA ボランティア経験者 (Old Volunteer)

NICE 国際ボランティアセミナー～国際ボランティアってどんなの?～



7月9日(火)に今出川キャンパス良心館302教室にて、10日(水)に京田辺キャンパス知真館1号館211教室にて「NICE 国際ボランティアセミナー～国際ボランティアってどんなの?～」を開催しました。参加者は計8名でした。

この企画は海外でのボランティアに関心がある学生へ向けて、NICE(日本国際ワークキャンプセンター)の取り組みや、実際にプログラムに参加した先輩の体験談を紹介するセミナーです。当日は職員の方と、計4人の学生に登壇してもらい、各国での子どもの学習支援、交流や学校の外壁補修(ペンキ塗り)、トイレづくりや農地の開墾といったそれぞれの活動や現地での生活の様子を聞きました。フリートークの時間には参加学生から活発な質問が出されました。

参加者からは「先輩方のお話が聞けたので、活動の内容が伝わってきてよかった」「自分の後押しになった」などの感想がありました。

【学生レポート】参加者感想

心理学部心理学科2年次生 杉江 麻衣

1年生の頃から気になっていたけれど、不安が大き過ぎて参加できなかった海外ボランティア。今回はボランティア支援室からのメールで説明会の存在を知り、参加に至りました。NICEの担当者から概要を、実際に参加された方から体験談をそれぞれ聞いた後、全体で質問会が行われました。海外ボランティアの綺麗な側面だけでなく、失敗談等も含めて会話形式で聞くことができ、精神的に強く参加を後押しされました。また自分以外の説明会参加者からの質問を聞いていると、ボランティアの動機や関わり方は多岐に渡るのだということも実感できました。

ボランティア入門講座～ボランティア参加のススメ～

6月19日(水)に京田辺キャンパス知真館1号館108教室、6月24日(月)に今出川キャンパス良心館101教室にて、「ボランティア入門講座～ボランティア参加のススメ～」を開催しました。参加者は両キャンパス合わせて10名でした。

この企画は、ボランティアに興味はあるが一歩を踏み出せない学生などを対象とし、基礎的な講義でボランティア活動の意義を理解してもらうとともに、実際にボランティアに参加した先輩の体験談を紹介することで、ボランティア活動への参加のきっかけとしてもらうことを目的とした企画です。

参加者からは、「実際にボランティアに参加した人の生の声が聞けたことがよかった」「ボランティアについて具体的な話を聞くことができ、また相談もできてよかった」といった感想が寄せられ、最初の一步を踏み出す大きな後押しになったようです。



【学生レポート】参加者感想

社会学部産業関係学科1年次生 齋藤 恭寛

大学に入学し、何か新しいことを始めたいと考える中で興味を持ったボランティアについて、より深く知ってみたいと思いこのイベントに参加しました。参加する前はボランティアについてぜんぜん知らなかったのですが、「ボランティアとは」から話が始まり基本的なことから知ることが出来ました。また、「ボランティアの心得」や「ボランティアのお約束」など活動時の注意点などを聞くことができるとてもいい機会でした。色々な活動をされた先輩の体験談も聞くことができ、これからの活動のヒントとなるイベントでした。



スキルアップ講座 Vol.5 グループ運営とコミュニケーションのコツ

9月18日(水)に、京田辺キャンパス知真館1号館116教室にて、「スキルアップ講座 Vol.5 グループ運営とコミュニケーションのコツ」を開催しました。スキルアップ講座とは、ボランティア活動に取り組んでいる学生や学内ボランティア団体などを対象に、活動に活かせる発展的な知識やスキルを学ぶ場を提供するボランティア支援室主催の講座です。

今回は、講師に金 香百合氏(HEAL ホリスティック教育実践研究所所長)をお迎えし、25名の学生が参加しました。ワークでの実践を通してコミュニケーションのコツを学び、グループ運営の視点を教えていただきました。学生たちからは「私たちが今感じていることや課題にしていることの内容をピンポイントに突いている講座で本当に良かった」「サークルが続くために自分たちができていることを考える材料になった」などの感想が寄せられました。



【学生レポート】参加者感想

文化情報学部文化情報学科2年次生 酒井 俊樹

私はサークルの副代表であり、団体をまとめる立場にあるので、その良い方法を学ぶために本講座に参加しました。団体を運営していくにあたって、自分のやりたいようにするのではなく、メンバー個人を尊重し、それぞれの居場所を作ることが重要であることを学びました。講座ではアイスブレイクやグループワークが多く、お互いの悩みを共有したり相談したり、とても楽しい雰囲気の中で学ぶことが出来ました。

スキルアップ講座 Vol.6 どうする？メンバーのモチベーション？

2月13日(木)に、室町キャンパス寒梅館地下A会議室にて、「スキルアップ講座 Vol.6 どうする？メンバーのモチベーション？」を開催しました。

前回と同様に、講師に金 香百合氏(HEAL ホリスティック教育実践研究所所長)をお迎えし、14名の学生が参加しました。講座では、新メンバーのモチベーションについて主に考える時間となり、他団体との交流を深めながら、モチベーションを上げるためにできそうなことについて、アイデアを共有しました。

参加学生からは「自尊心とエンパワメントについてのお話がとても興味深かった」「他団体の人と身近な話ができ、運営方法についても知ることができた」といった感想が寄せられました。



【学生レポート】参加者感想

法学部法律学科1年次生 金子 未来

自分の所属する団体がより良い形で動くためには何が必要なのかを知るために、今回の講座に参加しました。特に印象に残っているのは対話力に関する部分のお話です。内容的には聞いたら当たり前のように感じるけれど、立ち止まって自分を振り返ると意外とできていないことが多かったです。対話力を磨いて、より円滑な組織運営ができるようメンバー全員で取り組んでいきたいです。

ボランティアサークル紹介イベント in 今出川

4月3日（水）に、今出川キャンパス良心館2階ラーニング・コモンズプレゼンテーションコートにて、ボランティアサークル紹介イベント in 今出川を開催しました。この企画は、同志社ボランティアネットワーク（通称 V-NET）に加盟する8団体と学生スタッフ ARCO が協同で企画・運営を行った新入生歓迎企画です。今回は、同日の午前中と午後の2回行い、述べ55名の学生が参加しました。

当日は、各団体の活動紹介を行い、その後は各団体のブースに分かれ、参加学生が個別に質問や相談をできる時間を設けました。参加者からは、「複数の団体のお話を聞けてとても参考になった」「たくさんのボランティアサークルを知れた」といった感想が寄せられました。



【学生レポート】参加者感想

政策学部政策学科2年次生 酒井 慧弥

私は、ARCOの代表の一人として、V-NET新歓企画の企画・運営を担当しました。特に、当日は司会を担当し、期待と不安の入り混じった新入生の前で私たち今出川校地のボランティア団体の紹介を行いました。緊張のあまり早口になることもありましたが、無事団体の紹介を行えました。私個人としては、元々人前に出るの得意ではないのですが、この役割を通じ、一先ず挑戦してみることに意味はあると感じられました。

ボランティアサークル新歓交流会



4月3日（水）と23日（火）に、京田辺キャンパスローム記念館劇場空間にて、ボランティアサークル新歓交流会を開催しました。これは、V-NET京田辺に所属する6団体が一室に会し、主に新入生に対して活動紹介を行う新歓企画です。2019年度は1日2回、計4回開催し、計50名の学生が参加しました。各団体からの紹介の後、団体を比較することでより自分にあった団体を見つけてもらおうとトークライブの時間を設けました。最後に各団体のブースに分かれて個別に質問できる時間を設け、参加者と団体担当者が活発に交流を行いました。

参加者からは「それぞれのボランティアサークルの内容がわかってとてもよかった」「サークル内の雰囲気と活動内容を詳しく知ることができたので満足しました」といった感想が寄せられました。

【学生レポート】参加者感想

心理学部心理学科1年次生 佐藤 未波

私は誰かの役に立ちたいという想いで、入学後ボランティアサークルを探していました。そんな中、説明会のチラシを見て、会場へ向かいました。複数団体がありましたが、特徴ごとの説明でとても分かりやすく、先輩方の奉仕精神が伝わってきました。また、ボランティアサークルを掛け持ちできることを知りました。「子ども」との関わりに興味があったことから、2団体に所属することを決意しました。

V-NET 交流会

【学生レポート】企画報告

心理学部心理学科2年次生 小泉 風花

6月25日（火）に新別館第10会議室とラッテにてV-NET交流会を開催し、40人の学生が参加しました。この交流会は、V-NETの各団体にとって新メンバーが入ってから初めての交流会でした。その新メンバーにV-NETやほかの団体について知ってもらおうと思い、企画し、各団体からたくさん参加してくれました。各団体の紹介や体を動かすレクリエーション、班に分かれて巨大パフェを食べながら楽しく話をする事で、新メンバーにとって、ほかの団体がどんな活動をしているのか、どんな人が所属しているのかなどを知る機会になったと思います。V-NETに所属している全団体から参加者がいてくれたのと他団体のメンバー同士が話している姿を見られて嬉しかったです。



【学生レポート】参加者感想

生命医科学部医工学科2年次生 横井 勇人

普段他団体との交流が少なかったため、交流を深めるいい機会ではないかと思い今回の活動に参加しました。活動前は他団体とかかわるのはほぼ初めてのことで緊張していましたが、ゲームを通じて緊張もほぐれ、他団体の方と仲良くなることができました。また、ラッテにて巨大パフェを一緒に食べました。一つのパフェを複数人で分け、食べることにより仲を深めることができたのではないかと思います。

復興ボランティア学ワークショップ



9月4日（水）、京田辺キャンパス新別館第10会議室にて、V-NET 合同企画「復興ボランティア学ワークショップ」を開催しました。このワークショップは、昨年、石巻専修大学山崎ゼミナールとV-NET 団体「Global Baton for Ishinomaki」が共催で実施したのですが、その時に当日参加したV-NET 所属団体の学生達から、災害復興というテーマに関心のない学生にこそ受けてほしい、災害復興という切り口から地域における課題解決について考える場をV-NET 京田辺で持ちたいとの提案で実施されました。当日は、山崎ゼミから4名、V-NET に所属する学生9名が参加しました。

参加した学生からは、「知ろうと思う1歩目を作るワークショップとしてとても良かったです。山崎ゼミの学生のファシリテーターの進め方やアイスブレイクの内容も参考になりました」などの感想が寄せられました。

【学生レポート】参加者感想

理工学部エネルギー機械工学科2年次生 土井 都夏紗

私は、今回のワークショップを通して復興とは何か考えていきたいと思っていました。現在ボランティアサークルに所属していて、災害救援や東北でも復興支援活動をしています。被災地にはずっと暗い、寂しいというイメージがあります。しかし、暗い話題の中にも子どもの笑顔が元気になるきっかけに繋がっていたり、人と人との助け合いだったり明るい話も聞くことができました。災害がおこり、建物が流され、街が被災していく中、街をもとに戻すことが復興ではなく、辛い出来事を受け止めていくことが復興だと思いました。そこで大切になるのが人とのつながりです。自分ごととして楽しくワークショップに参加することができました。周りにも今日のことを伝えていきたいと思います。

V-NET クリスマス交流会

【学生レポート】企画報告

心理学部心理学科2年次生 近藤 結子

12月12日（木）に京田辺キャンパス多目的ホールにて開催されたV-NET クリスマス交流会には、京田辺の各ボランティア団体より40人のメンバーが参加しました。この交流会は、次年度の新歓時期に各ボランティア団体が互いにサポートしあい、新入生の興味に応じたボランティア団体を紹介できるようになるために、団体間での交流を図ることを目指しました。季節に応じたイベントに参加メンバーは心弾ませ、団体間を超えての交流が実現しました。企画担当者として携わる際、目的や目標を周知することを徹底し、それが実現できた時の達成感は大きかったです。また、参加者の一人としても、他の団体の活動の様子について新たな面を知ることができてよかったと思います。



【学生レポート】参加者感想

同志社女子大学学芸学部音楽学科1年次生（PAZMUSICA所属） 中嶋 桃子

他のボランティア団体の人たちともっと交流を持ちたいと思い、V-NETのクリスマス交流会に参加しようと思いました。最初は他団体の人たちと打ち解けられるか不安でしたが、様々なゲームを通じて段々と仲良くなることができました。特に、他団体の人たちとグループを組み、クリスマスツリーの飾りを探す宝探しのゲームでは、協力しながら一緒に行動することで仲が深まり、楽しい時間を過ごすことができました。また、他団体の活動内容やミーティングのことなど、普段はなかなか聞くことができないような話も聞くことができ、とても勉強になりました。今年度はV-NET担当としてたくさんの人たちに参加してもらい、楽しんでもらえるような企画を作りたいと思います。

V-NET 自主研修会



【学生レポート】企画報告

スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科3年次生 元行 咲希

昨年度、各サークル代表者からサークル同士の忙しさや運営方法を把握していなかったためV-NETの合同企画を立てにくかったという反省点が上がりました。今回の企画は、その反省点を活かして今年度から新たにV-NET担当になった人達が交流し、お互いのサークルの運営方法を知るという目的で行いました。企画当日は、22人のメンバーが参加し今まで知らなかった他サークルの運営方法を知り新たな発見の連続で大盛り上がりでした。今回、新しく知り得た他サークルの運営方法を新歓に活かし、更にその先もV-NETでの企画が上手くいったら企画者としてとても嬉しいです。

【学生レポート】参加者感想

グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科2年次生 蔡 紫盈

Global Baton for Ishinomaki (GB)のV-NET担当の引き継ぎのために、初めてV-NETの自主研修会に参加しました。研修会に参加する前は、他の団体と交流する機会もあまりなかったため、V-NETのことをあまり知らず、ちょっと緊張しながらの参加となりました。しかし、実際に研修会に参加し、今年度の振り返りや来

年度の企画の討論を通じて、V-NETや他の団体の方を少しずつ知ることができました。また、普段では規模も活動内容も異なる団体とお互い悩み相談を行ったことで、団体の責任者として運営の仕方など大変参考になり、このように交流できたことが嬉しかったです。

国際居住研究会

活動内容

私たちは、「世界の誰しにも可能性の開かれたフェアな社会の実現」を理念に掲げ、主に、貧困地域の住居支援、フィリピンの女性と子供の支援、世界の農村リーダーを育成する学校のサポート、バングラデシュにある孤児院の支援、ビルマ難民の支援を、5つのプロジェクトに分かれて行っています。国外、国内を問わず、学生として、学生だからこそできることを考え様々な形で、幅広い活動を行っています。

【メッセージ】

文学部文化史学科2年次生 平尾 立悟

大学生でしかできない経験、得られない価値観、様々なものがこの団体には詰まっています。様々な世界や人々に触れ、自らが成長するとともに、まだ見ぬ誰かの「幸せ」を一緒に築いていきましょう！



STUDY FOR TWO 同志社大学支部



活動内容

「勉強したいと願うすべての子どもたちが勉強できる世界に」を理念に、全国約50大学の支部で年間寄付額1000万円を目標に活動しています。

活動内容としては、大学生の読み終わった本・教科書を回収し、それを定価の半額以下で販売することで得た利益をラオス・バングラデシュの教育支援費として寄付しています。大学生はお得に教科書を手に入れることができ、途上国の子どもたちも勉強できるようになるといった、教育支援のWin-Winなシステムを構築しています。

【メッセージ】

商学部商学科2年次生 岩尾 結依

私たちは教科書の回収・販売という地道な活動を通じて、本に関する知識はもちろん、Excel入力やビジネススキルを身に付けて、日々成長しています。全国50支部という大規模なコミュニティでもあるSFT。入ったら大学生活が充実するので、ぜひ私たちと一緒に活動しませんか？



学生団体 CHAD

活動内容

私たちは「両国の学生が主体となって諸問題の解決となる第一歩の活動・ムーブメントを起こす」を目的に、カンボジアで国際協力活動をしています。夏には約2週間現地を訪れ、プノンペン大学の学生と協力しながら子供達と体を動かしたり、簡単な日本語や職業を教えるなどの教育支援を行っています。また日本での活動として、カンボジアを支援するための資金を調達するため、募金活動やイベントを開催しています。

【メッセージ】

文学部英文学科1年次生 植木 結実加

私たちCHADは皆明るく、何事にも積極的です。カンボジアの子供達のために何かしてあげたい、私たち学生に出来ることは何か、一人一人が自分の考えをしっかりとって、日々活動しています！



学生団体 LUCKY

活動内容

アジア最貧国と言われるネパールには、十分な教育を受けられない子供たちがたくさんいます。私たちはそんな子供たちのために、教育支援を中心とした支援活動を行うため、募金活動やイベントを行っている団体です。また、春・夏の年2回のスタディツアーとして支援先の村や学校を訪問し、現地の子供たちに寄り添った支援を心掛けています。



【メッセージ】

商学部商学科2年次生 上田 那渚

私たちの理念「Learn to Act, Act to learn ～あなたと明日を～」に含まれる“あなた”とは LUCKY の活動に関わってくださる全ての人を指します。“あなた”への感謝を忘れず、ネパールの子供たちの明日を創るために日々活動していきます。



ASUVID 今出川



活動内容

私達、ASUVID 今出川は地域活性化、国際協力、減災防災、子どもの教育支援、環境保護の5つの分野を活動の柱として、幅広い地域で活動を行っています。

また、参加しやすいように京都府内でもいくつか活動を行っています。

【メッセージ】

経済学部経済学科2年次生 迎 瞭太

ASUVID 今出川は人数が多く本気でボランティアに取り組みたい人から、一度ボランティアを体験してみたい人など、色んな目的を持った人が所属しており、どんな人も拒まない団体です。ぜひ一緒にボランティアをしましょう。



同志社ヒーローショー同好会

活動内容

幼稚園や小学校、地域のお祭りや福祉施設などの子供が集まる場所において活動しているボランティアサークルです。

子供たちや地域の皆様と、我々学生との交流を目的としてオリジナルのヒーロー「同志社戦隊タナレンジャー」の活躍するヒーローショーやボランティア活動をおこなっています。



【メッセージ】

文学部哲学科2年次生 寺田 美紗都

ヒーローショーを通じて子供たちが素敵な笑顔になってくれることが私たちの一番の喜びです。これからも一人でも多くの方に笑顔になっていただくため、より良い公演を目指します。

同志社ワーキングコーラス

活動内容

私たち同志社ワーキングコーラスは、「青少年の健全育成」、「会員の全人格的人間形成」を理念に掲げ、男女比1：1の約100名で活動を行っています。具体的な活動内容は、野外炊飯、キャンプファイヤー、ウォークラリーなどを含むキャンプやハイキングの野外活動を子供たちと行っています。その他に週一回の例会を通して仲間との親睦を深めています。

【メッセージ】

政策学部政策学科2年次生 大日向 拓登

活動を通して、仲間の大切さ、キャンプを作ることの感動を知ることができるサークルです。

子供が好き、キャンプやハイキング活動に興味がある学生など、様々な思いを持った会員で日々の活動に全力で楽しんでいます。



Shinmachi Activate Project (SAP)



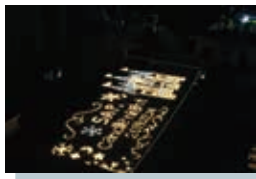
活動内容

私たちは新町の活性化を目的に活動している団体です。同志社大学の学生をはじめ、地域の方々に楽しんでいただけるイベントなどを企画・運営しています。毎年12月に開催している『新町祭』では地域の方々、学生と共に作る関西最大級のキャンドルナイトイベントとして、多くの方々にお越しいただいています。

【メッセージ】

政策学部政策学科2年次生 川北 隼士

私たちSAPは、新町を盛り上げるため、学生と地域の方々とともにイベントを作り上げ、地域全体が笑顔になれるように全員で頑張ります！



スポーツボランティア団体 Egg

活動内容

「スポーツで人々を笑顔に」をテーマに、関わる人たち全員が楽しめる企画を考え、活動しています。

京田辺市の小学校を中心に放課後、子どもたちとスポーツを行いながら、スポーツの魅力や楽しさ、人と協力することの大切さを伝えています。毎週月曜日にミーティング、月に1・2回小学校での活動があります。

【メッセージ】

心理学部心理学科2年次生 小泉 風花

Egg は自分の「やりたい」を実現できる場です。みんな企画に対して全力で取り組みます！子どもが好き、スポーツやボランティアがしたい、企画に携わりたい、わくわくしたい人はEgg に来てください！



Global Baton for Ishinomaki

活動内容

日本人学生と外国人留学生と一緒にランチタイムで外国語を話したり、イベントを行ったりして収益を被災地へ寄付しています。また、2020 年度からは日本語教室ボランティアや、京田辺市と連携して活動する予定です。外国人人口が増え続ける今、外国人住民向けの生活情報の発信や防災への取り組みなどが重要となり、GB の強みを生かして多文化共生ボランティアを目指しています。

【メッセージ】

グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科2年次生 蔡 紫盈

V-NET の中で、外国人留学生が数多く参加しているボランティアサークルです。国際交流や地域・社会貢献に興味ある方はぜひ、気軽に連絡をください。皆さんの参加を心からお待ちしています！



そら

活動内容

子どもたちの保護者と連携しながら、精華町に住む障がいをもつ子どもたちと、調理・工作・外出などの活動を企画・運営しています。「そら」は2003年に特定非営利活動法人として京都府より認証を受け、学生だけでなく、困ったときにアドバイスをしてくださるスタッフ（職員）と共に活動をしています。また、ひとり親家庭の子どもたちと一緒に勉強したり遊んだりする「学びの広場」という活動もしています。

【メッセージ】

社会学部教育文化学科2年次生 鈴木 夏菜子

「そら」は、精華町の子どもに寄り添う形で活動しています。一対一で子どもと関わるので、実際に子どもたちの成長を肌で感じられる場面が多くあります！みなさんも私たちと一緒に子どもたちの成長を近くで見守ってみませんか？



同志社生涯スポーツ研究会 ～ DUAL Sport ～

活動内容

DUAL Sport は年齢・性別を問わず、誰もが楽しめる生涯スポーツの普及のために活動しています。メインイベントは、年に2回、小学生対象に企画・開催している「すぽっこキャンプ」というスポーツキャンプです。その他の活動としては、京田辺市の小学生を対象としたドッチビー指導を行ったり、京田辺市内の子ども会のイベントに参加したり、京都市中京区の健康づくりサポーターの方と連携し、お年寄りの健康づくりイベントに参加したりしています。

【メッセージ】

心理学部心理学科2年次生 今井 龍希

私たち DUAL Sport は子どもからお年寄りの方まで幅広く、色々な人と出会い、ふれあえます！その人たちがずっと楽しくスポーツや運動ができるような場を提供できたらという思いで活動しています！皆さんのご参加をお待ちしています！！



PAZ MUSICA



活動内容

PAZ MUSICA は、音楽を通して地域の方々と交流することを目的として活動を行っています。幅広い年代の方々と出会い、「笑顔の輪」を広げることが団体に所属する団員一人一人の目標です。主な活動の場は、デイサービスや保育園、特別支援学校、そして地域のお祭りや子ども会のイベントでの演奏会です。バイオリンやクラリネットから鍵盤ハーモニカまで、様々な楽器で演奏するほか、参加者の方と一緒に歌ったり体を動かすプログラムを取り入れ、お互いの交流が充実し、素敵な会になるように力を入れています。

【メッセージ】

文学部英文学科2年次生 下田 青空

活動においては、参加者の方に素敵な時間を過ごしてもらうことを一番に考えつつも、自分たちが自身が達成感や充実感を得られるような取り組みにすることを重視しています。音楽での交流をとおして、普段の学生生活では味わえないような貴重な経験をさせていただいています。



ASUVID 京田辺

活動内容

私たち ASUVID 京田辺は、同志社大学・同志社女子大学の学生、約200名を超える人数で活動している京田辺校地最大のボランティア団体です。地域に根差したボランティア活動として、繁殖した竹林を伐採する竹林整備活動、経済的に恵まれない子どもたちと一緒にご飯を食べる子ども食堂、子どもたちに勉強を教えるスタディーサポート、障害を持つ人とそうない人が交流できる場をという理念の基活動するつながりプロジェクトなど活動内容は多岐にわたります。豊富で幅広い活動内容、それこそが ASUVID 京田辺の魅力です。

【メッセージ】

スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科3年次生 元行 咲希

私たちの団体は、約200人の会員が在籍していることを強みに、様々な視点から社会問題に挑戦しています。所属員一人一人の「挑戦してみたい」、「やってみよう」という気持ちを大事にしておき、活動を通して自分を大きく成長させることが出来ます。





同志社大学 学生支援センター
ボランティア支援室

開室時間 9:00～17:00 (平日)

HP <http://volunteer.doshisha.ac.jp/>



今出川校地

〒602-0023 京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町103
室町キャンパス寒梅館1F

Tel(075)251-3236 Fax(075)251-3099

Mail ji-volun@mail.doshisha.ac.jp

京田辺校地

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3
京田辺キャンパス多目的ホール(ハローホール)

Tel(0774)65-6777 Fax(0774)65-7421

Mail jt-volun@mail.doshisha.ac.jp